

# 染香

ぜんこう

福泉寺寺報  
令和3年1月  
第91号  
(毎月1日発行)

マスク歌り  
初めて知った  
友の顔

しんどい、けど…

本年もよろしくお願いいたします。

娘は今年小学4年になります。その娘が

先日、こんなことを聞いてきてびっくりしました。

「ねえ、とうちゃん、子どもがいない方が楽？」

就寝前でマブタが半分閉じかけていたのが開きました。どう答えるのが子どもにはいいのだろう、しかし嘘はつきたくないなと思ひまして、

「そうなあ、楽かもなあ」と返しました。続けて

「楽かもしれんけど、つまらんだらうなあ」と付け足しました。

翌日になって娘は、訊ねたことも忘れてしまったかのように日常の姿のままでした。子どもってそんな感じですよな。



あとで振り返ってみまして、このようなことはあらゆることに当てはまりそうだと思います。

介護はしんどい、けど…

仕事はしんどい、けど…

お付き合いはしんどい、けど…

孤独はしんどい、けど…

先日、ガンでお母さまを看取った息子さんが、最後の一週間は、人生二回分の時間を一緒に過ごしたと話されて「幸せだった」とおっしゃいました。

看病は終わりの見えない道でしたのに、幸せを感じられることもある。「けど…」の「…」が私たちの人生の内容ですね。

お経には「つまらん」とはありませんが、それに近い表現に「空過(くうが)」というものがあります。「空しく過ぎる」と読みます。いかがでしょう。  
(住職)

## お経のことば折々

《慈》

經典では「慈悲」のように使われ、仏様のお心を表します。また、磁石の字も紀元前のお乳に赤ちゃんが引き寄せられる様子を表したようです。

仏さまは、私たちの生き方を問わないといいますが、その根底にはこの「慈」の心、すなわち決して見捨てない親心があるから、と伝えられます。



## ちょっとあたまのこりほぐし

$$1+16=1$$

直線を一本引いて、式を成立させましょう。

(答えがわかりません、どなたか教えてください)



## おてらから

・**のうこつぼ**(マンション型お墓)

2月中旬建立予定です。完成すれば福山市内では第1号なんだそうです。

お墓についての不安を解消いたします。ご遠慮なくお尋ねください。

・**ホームページ**ができます。

1月中には開設予定、ご期待ください。

・**寺子屋**をしています。

毎週土曜日あさ8時

コロナで休み休みですが、学校の宿題や塾と同じテキストを使いながら

1時間ほどしています。あとはおやつタイム、境内で鬼ごっこやかくれんぼもしています。

・**お晨朝**(朝のおつとめ)

毎朝六時半〜三十分

なんとなく朝の習慣になったら、気分が違います。いつでもお参りください。

## アザの神様

昭和十九年生 齊藤絃子(埼玉県)

「ただいまー」玄関に弾んだ、いつも通りの大きな声でしたかと思うと、娘はランドセルの音をたてながら、ダイニングを抜けて鏡の前へ駆け寄り、そこに映った自分の顔をじっと見つめ、そばにあったティッシュに水をつけて左手で前髪を上げ、右手で幾度も額から頬にかけてぬぐっている。

いつものことである。私は胸を締めつけられる思いで、じわじわと涙があふれる。それを娘に見られないように、娘が生れて三ヶ月の頃を思い出していた。

上の子供から六年ぶりに生まれた可愛い赤ちゃんの顔の左まぶたと頬と眼に青いアザがあった。近くの病院で診てもらおうと、「これは消えませぬ。いいじゃない、最近皆さんアイシャドウをつけているもの」。

医者はあっさりと言ったが、私はなんだかやり切れない気持ちで家に帰り、自分の顔の左側に青黒いシャドウ

をつけてたり付けて、商店街を歩いてみた。ジロジロ、ヒソヒソ、私の顔に注がれるいくつもの視線を痛いほど感じながら、さあ見るなら見たいだけ見るがいいと、私は居直っていた。娘は、これから先、こういう視線を浴びながらどんなふうになるか。心の葛藤を重ねて生きるだろうか。辛いに違いない。私と替ってあげる事が出来れば、どんなに救われるか。嫌なことがあった時は、私に当たって欲しい。辛い時は、私も一緒に苦しい。私は心の中でそうつぶやきながら大またで歩き、声を出して泣いてしまったあの日。丸顔で、アルプスの少女「ハイジ」のようだと言われるほど愛らしい娘だが、無情にもアザはどんどん大きくなった。



今日は、アザのことをきちんと言おう。

娘はランドセルを背負ったまま、まだアザのところを拭いていた。

その日、私は、娘に可哀想な神様の話をした。「生まれ来て来る何人かの赤ちゃんに、アザを付けなければならぬ神様がいてね。その神様は、『自分の体はアザだらけになってもいいですから、赤ちゃんにアザを付けなくてもいいでしょうか』って、偉い神様をお願いしました。もしたら『アザが付いても、強く、誰にでもやさしい心を持った赤ちゃんをさがしなさい』と、偉い神様に言われたんだって。アザの神様は、毎日毎日泣きながら、普通の人よりも強くやさしい心を持った赤ちゃんにアザを付けたんだって。そしてアザのある赤ちゃん達が笑った時だけ、アザの神様も笑うことが出来るようになってたんだって——だから厚子は、誰よりも強い心とやさしい心を持って生まれ来て来たのよ。嫌なことを言う人は、顔にアザが無くて、心に大きなアザを付けているんだからね。さあ可哀想なアザの神様を笑わせてあげようね」涙と鼻水でぐちゃぐちゃの私。見上げ

ている娘の目もぐちゃぐちゃでしたが、笑おうと必死でした。

それ以来、今まで一度も娘の口からアザのことを聞いたことはありません。

幼稚園児の頃は、おばけ、青、などと言われたことは知っています。学校に行くようになり、いろいろなことがあったと思いますが、私が悲しむと思っか、何も言いませんでした。

今は娘にも勝るやさしい人とめぐり逢い、一児のママになって、とてもやさしく強い心を持っています。よく笑うので、アザの神様も、やっと毎日笑うことが出来る喜んでいらっしやるでしょう。

私は、この子からいるんことを学びました。

